

東慶寺

とうけいじ

縁切寺として知られた名刹

女人を導き癒した 2体の優美な観音像



水月堂の円窓に奉安されている水月観音像(6ページを参照)。「水月」の揮毫は、仏教学者・鈴木大拙の筆。

聖観音菩薩立像

木造、像高134.5センチ、南北朝時代。重文。かつて鎌倉尾五山の第一位として栄えた太平寺の本尊。右手は来迎の印、左手に蕾の蓮華を持つ。着衣は彩色のうえ、切金文と金泥を用い、土紋を貼りつけた優美な仕上がりで、典型的な宋元風の像(松ヶ岡宝蔵に安置)。

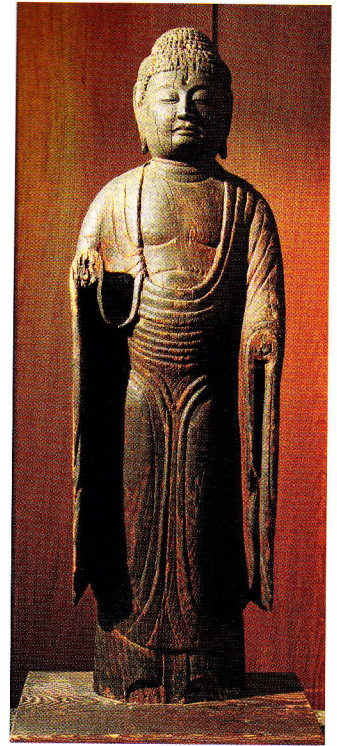
東慶寺(臨済宗)

鎌倉市山ノ内1367 ☎0467-22-1663 ●JR北鎌倉駅より徒歩3分 ◎拝観情報＝拝観料100円、8時半～17時(冬期は16時)、松ヶ岡宝蔵10時～15時(入館料300円、月曜休み)、水月観音の拝観は電話かハガキでの予約が必要(特別拝観料300円)



釈迦如来坐像

木造、像高90.5センチ、室町時代。東慶寺の本尊で、泰平殿(本殿)に安置。整った目鼻立ちの張り強いお顔と、腹部の複雑な衣文が印象的。



如来立像

木造(一木造)、像高84.5センチ、平安時代。横浜・三溪園で知られる原三溪より哲学者・和辻哲郎に譲られた像。

今ではすっかり鎌倉有数の花の寺として人気の東慶寺。とりわけ女性に人気が高いのは、寺域のそこかしこに、「男子禁制の縁切り寺」で女性たちを護り導いてきた歴史の余香が漂っているからかもしれない。当寺に安置される2体の観音像にも、女人の奇しき縁が関わっている。

泰平殿(本殿)。写真の左に水月堂が建つ。谷深い境内では、樹木や花々が雅やかな景観を演出。昌蒲田奥の白蓮舎では、和菓子と抹茶のセットが楽しめる。



写真 鎌倉合學

水月堂の水月観音は、大震災で伽藍が壊滅して在所を失い、戦後、鎌倉国宝館に預けられていた。ところが昭和30年、あるご婦人が靈感で寺に戻りたいという水月観音の声を聞き、そのことがきっかけで加賀前田家の持仏堂が移築されることとなり、ぶじ帰還を果たしたのだという。

松ヶ岡宝蔵にある重文の聖観音菩薩立像は、もとは尼寺の名刹、太平寺の本尊だった。ところが、大永6年(1526)に里見氏が鎌倉に乱入し、仏像・仏具のいっさいを奪い去った。その奪還に尽力したのが東慶寺の尼僧だったという。結果、本尊のみ鎌倉へ移され、東慶寺に寄進されたのである。